

核兵器は平和に必要不可欠か

遊佐 祥己

日本で教育を受けた人ならほぼ必ず原爆について知っているだろう。多くのシナリオは第二次世界大戦においてアメリカをはじめとする西側諸国と対立した日本が原爆によって敗戦を迎えるといったものである。北朝鮮のミサイル実験やロシアとウクライナの戦争など現代でも核兵器は不安要素としてその影をなくすことがない。しかし今を生きる人の半分以上は最初から核兵器の存在する世界に生まれ育ってきた。原子力発電や放射医療に救われた人や地域がいるのも事実だろう。そんな「当たり前の核-原子力」とはいったい何なのだろうか。

歴史をさかのぼれば核兵器が実戦で使用されたのは1945年の広島、長崎のみでそれ以外には対象を設定しない実験という形がとられてきた。その実験も次第に規制が強まり今では核実験自体が禁止されている。そんな核兵器は日本にとっては多くの命と日常を奪い、敗戦を決定づけた憎悪の対象であるだろう。毎年終戦記念日には広島市長は平和宣言を出していたりと国際社会において日本はその経験から核兵器を非難する場面が多い。しかし日本は大戦時に多くの国を侵略し、非人道的な行為を繰り返してきた。その加害性から日本が被害者として核兵器を糾弾する姿勢を非難する意見もある。日本に被害を受けた国にとって原爆は自分たちの仇をとり、戦争を終わらせた平和の象徴であるともいえる。アメリカにとっては勝利の象徴になっているかもしれない。では核兵器は私たちに平和に導くのだろうか。

平和のための核

「核の平和利用」とはアイゼンハワーの1953年の平和のための原子力宣言で述べられたように、核-原子力技術を利用した医療、発電そして軍事的抑止力に注目して核兵器を平和のために使おうという試みである。以降1950年代は原子力ブームとなり日本でも初の原子力予算がたてられた。核兵器の保有はその国の政治的な安定や国際的な立場から信用を得て認められた。国家によって厳重に管理された核は絶対に被害を出すことはない信じられていた。しかしこの信用をもとにした核の平和利用とは本当に実現できていたのだろうか。

まず思い浮かぶのはチェルノブイリや震災に伴う福島原発事故だろう。チェルノブイリに至っては事件から三十年以上たっているにも関わらず除染が完了しておらず、生き残った人々も被爆被害に今も苦しんでいる。現在福島原発の汚染水放出問題が国際的に注目の的であり、やはり私たちの技術では完全な汚染除去がそう簡単ではないことがわかる。原子力発電は確かに大きな力を持っているが、もしもの場合の被害の回復が容易ではない。それだけではない。核兵器は保有国内でしばしば輸送されることがあるが、その際に事故は何件も起きている。仮に爆発していればその地域は甚大な被害を受けただろう。またこのような事故を隠蔽しようとした記録も残っている。

核実験に伴う被害と功績

戦後加速した核実験は世界中で行われた。中でも最大規模とされるツァーリボンバは広島に落とされたものの約 3000 倍の威力であったともいわれている。しかし核や原子力に関する具体的な知識は重要な情報のため確認できない。一つ一つの実験にどれだけ意義があったのかは測定できないのである。しかし核実験は主に核兵器の性能向上のために行われていたとされている。それだけでなく戦後核兵器が力の象徴となり大国と対話するためのツールようになっていたという指摘もみられる。北朝鮮の核実験もアメリカとの対話のために対等な立場に立つ必要があったと言われている。では具体的な被害はどのようなになっているのか。戦後世界では 2000 回以上の核実験が行われた。人類最初の核実験とされるアメリカのトリニティ実験が周囲 300km 以上の範囲に爆風をもたらしたことから、水爆実験を含むこれ以降の実験がどれだけの被害を出したのかは計り知れないものだろう。問題はそれだけではなく、戦後他国の地域を半強制的に実験場にする事例も起きている。そこで暮らしていた人々は故郷を追い出され、被爆し今も帰れていない状況にある。このような出来事は世界中で起こっている。アメリカとソ連は互いに遅れをとらないため、他国は北朝鮮と同じように彼らに追いつくために核兵器を持つ必要があった。核兵器は格差を生み出しているともいえる。

核は世界に必要不可欠か

先に述べた通り核兵器は今生きていく多くの人にとっては「当たり前」のものだろう。しかしもう一度何のための核兵器かを考えてみてほしい。核の力が私たちに何をもたらし、何を奪ったのか。そしてこの先のことも考えてみてほしい。核抑止力は平和の役に立っているのだろうか。平和とは恐怖で他者を押さえつける窮屈な状態なのだろうか。私はそうは思わない。核兵器はもう十分すぎるほど被害を出した。力の象徴としての側面も強い。核兵器は存在するだけで格差を助長し、仮に不本意にでも使用されればその回復は容易ではない。私たちの生きていく当たり前の世界はすごく不安定な足場の上にたっているのだ。